

住民会議はだれのため？

これからの住民会議

私たちが日頃感じていること、抱えている問題などを地域の中で話し合い、ともに考え合ってその課題を解決していったら、そして住民の自治でそれを担っていったら素晴らしい。自由が丘住区住民会議はその大きな夢を実現しようと、住民の自主組織として23年前に結成されました。

目黒区では小学校の通学エリアを住区の単位とし、各々に住区住民会議があつて多様な活動を行っています。

しかし社会の変化に伴い、区のコミュニティ施策の中でも住民会議の役割や補助金のありかたについて見直しが必要だといふ動きがあり、私たちも今後の活動を模索する時期を迎えています。これまで培われた経験や人的交流を大切に、さらに話し合い、活動を深めなければと考えます。

自由が丘住区住民会議の実行委員には、18歳以上の住民であればどなたでも応募できます。また、住民でなくても、知識や特技、経験などを住民会議の活動に役立てたいという意欲をお持ちの方は、専門委員として参加することもできます。

人と人との交流が希薄になりがちな現在、お互いを尊重しながら協力し合つて、自らの生きていく環境づくりに意見を出していくことが大切だと考えています。これからの活動にぜひみなさまのご参加・ご提案をお待ちしております。住民会議の行事には、もちろんどなたでも自由に参加頂けます。一度は覗いてご覧になってはいかがでしょうか。



宮前小学校 入学式

3年間の委員長を終え4年目に入る。常に反省をしながら「何か」を信じ、活動してきた。単に「行事」だけを見ているように見える活動は、やはり長い目で見て「人作り」の結果につながっていると思う。子どもたちを取り囲む大人たちが、大変ながらも楽しく活動していく事が基礎として出来ていけば、おのずから人の輪も広がる。まさに大切な「接点」なのだ。

ジュニア・リーダーを育てることが難しくなっている時代の中、結果を

今年度の活動を振り返って各委員長から感想・これからの課題などを集めてみました。

青少年住区委員会
行事を通じて

自由が丘住区内の住民が皆さん顔見知りになつて仲良く住区内の良い事、悪い事を話し合つて問題を解決する事を目的としている委員会です。1年間に多くの楽しい行事を企画しております。6月の日曜日、緑小の校庭でグランドゴルフをします。和気あいあい、老いも若きも賞品目指して頑張ります。7月と10月、緑が丘コミュニティセンターでお料理教室を開きます。9月と2月に緑が丘コミュニティセン

ターでもう伝統行事にふたりサイクルセルを開きます。12月の恒例行事となっている「新春の寄せ植え」は内容がすばらしい割に参加費が安らいと評判です。近隣の自然を歩く、「歩こう会」、クラブの会を企画して行きます。ポスターでお知らせしますので大勢のご参加をお待ちしています。

地域活動委員会
山田 敦子

自由が丘という便利な街での暮らしは、本来身近であった環境の変化に疎くなりがちで、知らず知らずのうちに環境を破壊することになっていたりします。さらにその結果を、環境問題という大きな一言に集約して、一人一人が引き起こしたことを近付き難い問題にしてはいけません。環境問題という大義を掲げるのではな

環境整備委員会
松本智恵子

多く、誰にでも分かりやすく、毎日の生活の中で取り組んでいける様な環境整備活動を行っていきたいと思います。

まずは、どのような問題があるのかを捉えることから始まり、必要であれば専門家を招いて勉強会を行うことで問題を整理し、地域の人が問題へ目を向けていける工夫を重ね、一人一人ができることから積極的に問題に取り組めたらと思います。

具体的に環境整備委員会では、安全で歩きやすい街のためのパトロールや放置自転車の取り締まり、そして、日常的に行う駅前地区の清掃と花壇の手入れから、年一度の多くの住民の参加によって行う地域の「一斉清掃」果箱を設けて小鳥の集まる街づくり等の活動に取り組んでいます。

山本秀代
(防災住区委員会は裏面へ)



まちな表情
九品仏川緑道の今昔
めだか捕りを楽しんだ小川でしたが、今は緑道になって、散歩コースに彩りを添えています。

昭和9年の九品仏川

一滴
共育
「その日は何とかなりそうだから、私も行きますよ。」
これは、毎月第3木曜日の夜、住区センターで開かれている青少年住区委員会での会話です。

自由が丘住区には、宮前、そして緑ヶ丘の二つの小学校があります。一つの住区の中に二つの小学校があるのは、目黒区の中でも自由が丘住区だけです。学区が違つても、住区の皆様には両校に一方ならぬご支援、ご協力を頂いております。

特に自由が丘住区住民会議青少年住区委員会の皆様には、花火大会、和田村キャンプをはじめ、たくさんの方々の行事をPTAとの共催で年間を通して企画し運営していただいています。これらの行事を進めて下さる方々には二つの小学校の子どもたちを、学校と一緒に育てていく、すなわち学校と共有していくという強い思いがあります。それが伝わってくるのが文頭で紹介した言葉なのです。

保護者や地域と力を合わせて推進する学校教育が求められていますが、自由が丘住区ではずっと以前から実践してきていることを強く感じるとともに、とてもありがたく思っています。

緑ヶ丘小学校教頭
保木井 繁

青少年住区委員会行事
「餅つき大会」

2月17日曜日、曇り空の寒い一日でしたが緑ヶ丘小学校のピロティで、青少年住区委員会と緑小PTAとの共催行事である「餅つき大会」が行われました。



8時過ぎ、男性陣によるホイラーの準備から始まり、青少年の女性陣、PTAの大勢のお母さん達が、それぞれ打ち合わせ通りの場所でテキパキ、和気あいあい子ども達を迎える準備をします。10時から、いよいよお餅つきが始まります。熱々に蒸されたもち米が臼に移され、お父さんたちがエイサ、エイサの掛け声と共に、もち米をこねます。さあ、次は子ども達の番です。重い杵を一生懸命持ち上げ、臼に振り下ろします。危なっかしいけどみんな真剣な顔。つぎは、あんこ餅、のり餅、きな粉餅を作ります。12時、一斉に「いただきます」の大きな声。おかわりもいっぱいいただきました。



今年、西地区自治会でもポスターを貼ってくださり、近隣や老人クラブの皆様も駆けつけてくださいました。緑小の先生方、PTAのお父さんお母さん、緑が丘二丁目商店街、西地区自治会と、大勢の皆様のおかげで、今年も無事子ども達のはじける笑顔とともに「お餅つき」を終えることが出来、本当にありがとうございました。

老人いこいの家
地域世代交流会

2月16日土曜日は久しぶりに暖かく好天に恵まれ開場前にご来場のお客様が大勢お見えになりお手伝いの方々をてんでこ舞いさせました。

当日は友楽会、住区住民会議、消防団の方々と日頃から関係の深い皆様の積極的なご支援、ご協力のお陰で大盛況のうち無事終了することが出来ましたことをお礼申し上げます。

住民会議の石川会長の宅をお借りして前日から準備の30食分の豚汁の食材とおにぎりは、お手伝いの方達の勝手知ったる厨房でのご活躍で時間通り出来上がりホッとすする間もなくご接待におおわらわ。終わってみれば2時間半でご来館の皆様のお胃袋の中に綺麗に収まった様です。

れご来館の皆様はご満足でお帰り頂けたようです。区主催の行事を機会により多くの方々が地域活動で趣味を生かし生がい活動、健康増進活動など積極的にご参加下さいますことを心からお待ちしています。明るい町、楽しい町、心安らぐ町を目指して皆様とともにこれから交流を重ねていきたいと思います。

防災住区委員会



人工呼吸

心臓マッサージ心肺蘇生法
第5回「心肺蘇生法」

《4月から
応急救護が変わる！》
3月20日、今年度最後の防災塾を開催しました。この防災塾のポイントは繰り返し身につけるということ。救急車が来るまでの長い5分間、何か自分出来ることは！でもよほど自信がなければ、実際行動を取る勇氣はもてないでしょう。そしてその5分間が尊い命を生かせるか否かの分かれ道。今回は特署八雲出張所のかたがたに指導していただきました。より分かり易

巣箱作りを楽しむ



2月16日目黒区みどり公園課立山氏を講師にお迎えし、早速シジュウカラ一羽で害虫

く、実践的な応急救護を目指して、日本全国共通の指導要領を使うようになつたためです。「わかりますか？」の意識の確認から始まり、3ポイントを調べる循環のサインの確認、気道確保の顎下の指の当て方等々の変更。説明を聞いている時はフムフムと思っても、自分の番になると頭は真っ白状態。やはり「何度もやるしかない」と講座のたびに感じることも。機会があれば是非積極的に参加されることをお勧めします。いつも熱心に指導してくださる消防署、消防団の皆様へ感謝しつつ最後の講座を終えました。

との外可愛い」などの声や「何時頃入ってくるかな」と今から心待ちにしている方もいました。小さな力が集まって環境問題に一つ貢献した日となりました。

巣箱の作りは宿題がありまして、目黒区の鳥であるシジュウカラがどのぐらい育つかを目黒区の環境問題の一貫として、これから1年間観察をして頂きます。シジュウカラは3月と6月頃に巣作りを行うようですが今年は無理でも数年後に利用する事もあるのではと観察して、巣作りの様子を見たりと公園課にフアックスか電話で報告をお願いしたいと思います。



移築されています。

一万匹食べてくれるなどの生態の話や巣箱の取り付け位置の話で始まりました。カラスに狙われることがあるので、電線の近くに置かないようになど注意を積みながら巣箱作りが始まり、思い通りに真剣に取り組み、木の癖や節に戸惑いながらも完成させ、会場では「自分で作った巣箱はこ

成感と充実感を味わいます。開場から、久しぶりに達成感と充実感を味わいます。

移築されています。境内には五百羅漢があり約50年かけて作られたといわれる50体の人間味あふれる様々の表情をした石像には親しみを感じました。途中お昼には土地柄、芋おこわ御膳を頂いて小休止をしてその後時の鐘、蔵作りの町並みを見物し、早めに帰路に着いた頃にはやつと日が射してきました。

川越の自然を歩こう

2月10日(日)8時自由が丘駅出発時は真冬の寒さで防寒着に身をまとい、ホカホカカイロ持参の参加でした。昨秋の鎌倉行きが好評で、一般参加者からの要望があつて今回の川越行きが実現しました。今年度地域活動委員会の特別追加プランとなつたわけですが、12名の中にお孫さんの2度目の参加がありました。本川越駅より観光課の人の案内で日曜日のためルートを進むに喜多院に向かつて歩き始めました。越大師喜多院は火災後の再建時に江戸城内の家光誕生の間や春日局の間が

4台目の車椅子
寄贈



地域活動委員会の年中行事としてすっかり定着しているリサイクルセルが2月10日(日)に開催されました。出店する人、買い物をする人、そしてお世話をする委員会のみんなも和気あいあいのうちに今回もそこの収益を上げることができました。

家の押入れの隅に眠っていた不用品が再利用されて今度も4台目の車椅子として蘇り、目黒区社会福祉協議会に寄贈することができました。年2回のリサイクルセルが地域交流の場ともなり、今後とも小さな力がしだいに大きく実っていく様に願っております。

編集後記

住民会議の活動に実行委員として参加してから、5年が経ちました。得がたい体験が数多くありますが、人的交流が何よりも大きなものだと感じます。お互いの考えを尊重しながら、一致できるところを探ることがいかに大切で、しかも難しいかは、家庭でも痛感するのですが、市民の活動でも同じだと思います。日頃から活動を通じてお互いを知り、心を通わせてきたことは、これからは大事にしたい私のタカラモノです。(M)

発行 自由が丘住区
編集 広報委員会
(3718) 1195